

はじめに



2011年3月11日に発生しました東日本大震災で亡くなられた方々に哀悼の意を捧げ、被災されたみなさまに心からお見舞い申し上げます。

311 星空プロジェクトは、鎮魂の思いと“気づいたこと”を未来につないでいくプロジェクトです。私たちは、口コミで家族や友人達にこの思いを伝えました。そして、呼びかけに賛同してくれた仲間達を“言い出しっぺフレンズ”と呼びました。その輪は、仙台市、宮城県はもとより東北、関東～関西、日本中に広がりました。日本を離れ、イギリス、ドイツ、オーストラリア、フランスなど海外からも参加いただきました。

天文台は、星空観測会を開催してくれたり、思いが星空を通して繋がる試みを行って頂きました。父兄からの提案で学校行事として行っていただいたところもありました。企業やレストランなどでライトダウンを実施したり、家族でキャンドルをつくる企画を立てるなど様々な形でご参加いただきました。

まもなく3年目の3月11日を迎えます。

時の流れと共に、あちこちで震災の風化を危ぶむ声もあがっています。ご家族で、ご友人やグループ、地域の人たちなど大切な人たちで、あの日感じたことや体験したことを語り合い、あの日気づいたことを未来へつないでいきましょう。

今年も311 星空プロジェクトを行います。

実施内容

企画名	311 星空プロジェクト
実施日	2014年3月11日(月) 20時46分～21時45分
実施内容	3月11日の大地震が起こった時間から6時間後の20時46分から1時間。(短くても構いません) 部屋の明かりを消して鎮魂の祈りを捧げ、家族や大切な人と語らう時間を持ちます。多くの方が参加してくれると満天の星空が思いをつないでくれるはずです。
参加資格	おもいに賛同してくれる人であること。

311 東日本大地震から3年
私たちはあの日のことをけっして忘れない



鎮魂の思いを、顔をあげる勇気に
みんなの思いをつなげていこう！

311 星空プロジェクト

311 hoshizora-project ver.6.3 (2012.1.11)

東日本大震災

2011年3月11日金曜日 14時46分18秒

マグニチュード 8.8 (のちに日本観測史上最大の 9.0 と修正された)

震源地 宮城県牡鹿半島の東南東沖 130km の海底

死者 14,998 人 (宮城 8965 人、岩手 4412 人、福島 1557 人)

行方不明者 9,761 人 (宮城 5892 人、岩手 3266 人、福島 599 人)

避難所生活者 115,000 人 (18 都道府県 2400 カ所)

2011年5月12日現在・警察庁まとめ

ごく当たり前の3月。週末を控えた金曜日の14時46分。

立ってられないほどの大きな揺れが街を襲い、その揺れはとても長く続きました。

今まで聞いたことのないような建物の軋む音が響き、あちこちで悲鳴や泣き声が……。

そして電気が消えました。

街は機能を停止し、余震の度に道路に飛び出し避難する人々、数珠つなぎになった車。

この地震の規模がどれほどなのかわからないまま、皆パニックに陥ってました。

その後季節外れの雪が街を覆い、世界の終わりが訪れたのではないかと思いました。

夜になりました。

明かりの消えた街、

電話もメール使えず、

誰とも話せず、なにも情報が取れない世界。

まだ戻らない家族の安否。

繰り返される余震の脅威。

唯一の情報源、ラジオから聞こえてくるのは想像できない惨状ばかり。

未来は、いいえ私たちに明日はくるのだろうか、

言いしれぬ恐怖が全身をおおいました。

ふと見上げた空には、見たこともないような、

すごみさえ感じられるほどの

まばゆく輝く星空が広がってました。

思ったこと

あの夜から数日、明かりない日々が続きました。
その中でたしかに感じたことがありました。
かなしみの中で得たひとのやさしさ。
ようやく戻ってきた家族や大事な人と会えた時の喜びと安心感。
ふれあった手のぬくもり。
ローソクのわずかな光の中で交わしたことばが、癒やしとなることを。
家族の笑顔が勇気となることを。

そして、やっと明かりが復旧しました。
そこで、初めてその震災の大きさを知りました。
そして、全国や、全世界の人々が、泣いてくれていたこと、
祈ってくれていたことを知りました。

明かりは、夜の闇の中でも、手元や、部屋や、街を照らしてくれます。
お陰で私たちは、昼間と遜色なく生活を送ることができていました。
しかし、その強い光は、“本来見えるはずのものを見えなくしてしまっている”ことを
気づかせてくれました。

被災した私たちは、復興途上で、以前の生活を取り戻すにはまだまだという状況ですが、
この震災で気づいたことを発信することはできるはずです。
多くの犠牲者のみなさんへの鎮魂の思いと、未来につなげるメッセージを、誰もが参加で
きる形で発信していきたいと思えます。

そこでこんなことをしてみたら？

3月11日の夜。あの時から、ちょうど6時間後の夜8時46分になったら、部屋の明かりをみんなで一斉に消してみませんか？というお話です。

ううん、ずっとではありません。みんなでいっしょに1時間です。

1時間が難しければ、ほんの数分でもいいんです。

あの日私たちは、電気を切ることが出来ませんでした。

一年が経過し、今は以前のような電気をつけることができるようになりました。

ということは、同時にあの日のように消すこともできるのです。今度は自分の意志で。

あの日を経験した私たちだからこそ、わかったことがあります。

“本来見えるはずなのに見えなくなってしまったものがあることを”

あの日この震災を知り泣いてくれた人、祈ってくれた人を含めた全世界の人々に発信し、想いをつなげることができると思うのです。

満天の星空は、私たちの“想いの象徴”です。

犠牲になられたおおくの方々に、追悼の祈りを捧げましょう。

失われた大切な命と、かけがえのない思い出が、

わたしたちのなかで再び輝きだすように、

いっしょに電気を消すという体験を通して、

世界中の人々と分かち合っていきましょう。

そして生き残った私たちにできる事を、夜空の星に誓いませんか。

それを希望の輝きとして、みんなの想いを繋げていきたいと思います。

被災地から日本中へ、世界へ。そして、未来へ。

311 同じ時間をともに_____。

311 星空プロジェクト

公式 HP <http://311hoshizora.jp>

お問合せ info@311hoshizora.jp